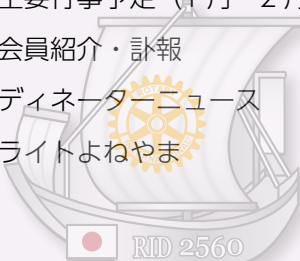


ガバナー一月信



月信1月号

- ① ガバナーメッセージ
- ② 第2回ガバナーエレクト研修セミナー
(GETS) 第51回ロータリー研究会
- ③ 米山ガバナーエレクト渡米壮行会
- ④ ロータリー財団・米山合同メジャー
ドナー感謝の集い
- ⑤ 職業奉仕月間
- ⑥ 会員数報告
- ⑦ 地区主要行事予定 (1月・2月)
- ⑧ 新入会員紹介・訃報
- ⑨ コーディネーターニュース
- ⑩ ハイライトよねやま



国際ロータリー第 2560 地区
2022-23 年度

高橋ガバナー事務所

〒950-8053
新潟市中央区川端町 6-53 ホテルオークラ新潟 1F
TEL : 025-222-2561 FAX : 025-222-2565



国際ロータリー第 2560 地区
2022-23 年度 ガバナー
高橋 秀樹 (新潟 RC)

皆様こんにちは。新年を迎え、今年度も後半に入ることになりました。

振り返ってみると、今年度の前半は、8月の豪雨災害、そして年末の豪雪災害があり、大変な時期でした。災害を蒙った皆様に改めてお見舞い申し上げます。ロータリーとして相応しい支援をしたいと思っておりますので、必要な支援など是非ご連絡いただけたらと思います。

さて、御蔭様で昨年12月をもちまして県内各クラブの公式訪問をすべて終えることができました。どのクラブでも大変歓迎していただき、洵にありがとうございます。改めてそれぞれのクラブの個性豊かな様子がよくわかりました。地区大会の挨拶でも申し上げましたが、この3年間のCOVID-19感染拡大防止のため、活動が制約されることが多い中で、それぞれのクラブで、強みと改善が必要などころとがはっきりしてきたのではないかと思います。COVID-19感染拡大防止のために今年度の活動の一部を見合わせているクラブがたくさんありましたが、ぜひこれからの半年間で計画を実現し、クラブの強みを更に発展させ、改善すべきところに手を入れていただきたいと思っております。

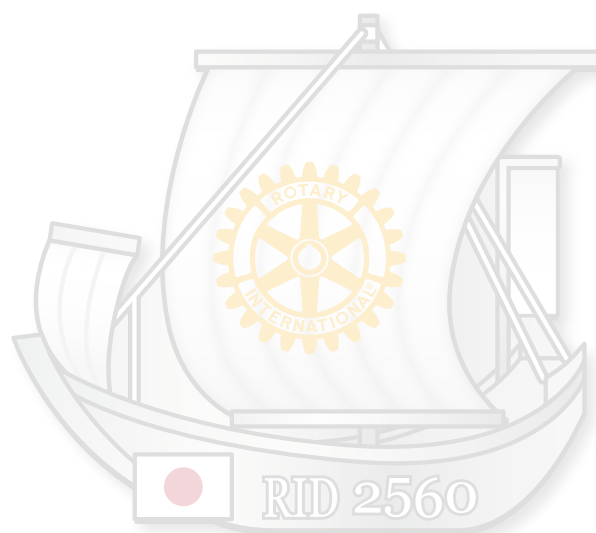
ところで、1月は職業奉仕月間です。「ロータリーの目的」の第2項では、職業奉仕の土台として、次のことを求めています。職業上の高い倫理基準、役立つ仕事はすべて価値あるものという認識、社会に奉仕する機会としてロータリアン各自の職業を高潔なものとする事。

そして、これらを具体的に実践する方法として、国際ロータリーは次のような内容を推奨しています。第一に、例会で、各会員が自分の職業について話し、互いの職業について学び合うこと。第二に、地域社会での奉仕プロジェクトで職業スキルを活かすこと。第三に、高潔さを重んじて仕事に取り組み、言動を通じて模範を示すことで倫理的な行動を周囲に促すこと。第四に、若者のキャリア目標を支援すること。第五に、専門能力の開発を奨励し、指導すること。

このような推奨内容の第一から第三に関しては、当地区のクラブでは、四つのテストの唱和や職場訪問、また、社会奉仕プロジェクトの実施における自らの職業的知識や技能の活用などが多く見受けられます。それに対し、第四の若者のキャリア支援や、第五の専門能力開発奨励と指導については、

あまり表面に現れてこないか、職業奉仕の一部として意識されることが少ないように思われます。人口減少、若手人材の県外流出、少子化などの問題を抱える中で、これらの内容は大変重要なものです。クラブ活動の一つとして企画・立案し、今年度の活動内容に加え、また、次年度以降へとつなげていってはいかがでしょうか。そのことが地域の発展の土台にもなろうかと思えます。

年頭に当たり、当地区の経済的、社会的発展、皆様の御健勝と御多幸をお祈りして、御挨拶とさせていただきます。





神戸での GETS、研究会に参加して

国際ロータリー第 2560 地区
2022-23 年度 ガバナーエレクト
米山 忠俊 (三条北 RC)

第 2560 地区の各クラブ・ロータリー会員の皆様、新年おめでとうございます。昨年は高橋ガバナーの下、ガバナーエレクトとして皆様からご支援をいただき大変お世話になりました。本年 7 月 1 日から、米山年度がスタートいたします。改めて格別のご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

さて私は、先般 11 月に神戸で行われました、ガバナーエレクト研修セミナー (GETS) と 2022-24 年度 RI 理事佐藤芳郎氏主催のロータリー研究会に妻と出席してきました。研究会は、ジェニファー・ジョーンズ RI 会長ご夫妻と TRF 管理委員長イアン・ライズリーご夫妻をお客様としてお迎えしての開催となりました。

GETS では、ガバナー就任に向けての準備を整え、次年度の活動の優先事項について知識を深めるとともに、1 月 8 日からフロリダ州オーランドで行われます国際協議会への意欲を高めました。国際協議会で、世界中のガバナーエレクトとネットワークを築き、有意義な学びを得るために、同期のガバナーエレクトとの親睦をさらに深め切磋琢磨してまいりました。

研究会では、多くの講演を拝聴いたしました。今後も続くと考えられるパンデミックの中で我々ロータリアンの使命とは、人々の健康状態を、貧困を改善し、質の高い教育を提供し、環境保全に取り組めるよう支援をすることです。皆様からのご寄付により世界各地での奉仕活動が行われていることも忘れてはいけません。一つ一つのご寄付により、世界中の問題を抱えた地域社会を少しずつ変えていくことができます。



最後に RI 会長から日本のロータリアンの皆様へのメッセージをお伝えしたいと思います。

『イマジン (想像) とは、未来を描くことです。』

私たちは、平和な世界、安全に水を使える世界、

やさしさ・希望・愛にあふれた世界をイマジンします。』



米山ガバナーエレクト渡米壮行会

国際ロータリー第 2560 地区
2023-24 年度 地区幹事

石黒 隆夫 (三条北 RC)

2023年1月8日～12日に米国フロリダ州オーランドで開催される国際協議会に参加する米山ガバナーエレクトの渡米壮行会が、12月3日 ANA クラウンプラザホテル新潟で高橋ガバナーはじめ高橋年度役員の皆様より開催していただきました。出席者は高橋ガバナーご夫妻、米山ガバナーエレクトご夫妻をはじめ多くのパストガバナー、ガバナーノミニー、米山年度ガバナー補佐、地区役員、米山年度ガバナースタッフ、事務局の総勢46名となりました。高橋ガバナーの挨拶と餞別贈呈が行われ米山ガバナーエレクトのお礼の挨拶の後、パストガバナー全員による鏡開きが行われ、新保パストガバナーの乾杯で祝宴がはじまりました。高橋ガバナーの挨拶では自身の国際協議会はコロナウイルス感染症の問題でガバナーエレクト全員による1時間以上の協議の結果、オンラインでの参加を選択した事は間違いではなかったけれど大変残念でしたと話されました。祝宴の会話の中でもパストガバナーから国際協議会で渡米できた中での体験談を楽しく聞くことができましたが、反対に米国時間に合わせたオンラインでの研修は大変だった事と想像できます。その意味でも昨年度は渡米壮行会でなく激励会でしたので今回の渡米は3年ぶりの再開という事で更におめでたく盛り上がりました。更に地区役員の方々と米山年度ガバナースタッフの貴重な親睦の場にもなりとても有意義な会となりました。そして、山本パストガバナーによる場を和ませる挨拶と中締めで無事終了する事が出来ました。

最後に、未だ感染状況の収まらない中参加していただいた大勢の方々と餞別をいただきました皆様、この会を開催していただいた高橋年度の皆様に改めて御礼申し上げます。





2022-23 年度 財団・米山感謝の集い午餐会

国際ロータリー第 2560 地区
2022-23 年度 ロータリー財団委員会
寄付・資金・ポリオプラス委員長
高坂 光一 (高田 RC)

昨年 11 月 26 日 (土) ANA クラウンプラザ新潟を会場に「2022-23 年度 財団・米山感謝の集い午餐会」が開かれました。

2019 年度に財団メジャードナーに対する敬意を表し始まった本会は、新型コロナ感染症の影響で 2 年間開催を自粛してきましたが、情勢も少し落ち着いたと判断され、共に皆さんに寄付をお願いする立場の米山記念奨学委員会との共催という形で行いました。(この共催は全国的にも例のないことだそうです)

10 月に両委員会メジャードナーを始め、メジャードナーに准じる方々に会の主旨ご案内をさせていただいた結果、師走を控えご多用の中、高橋ガバナー、米山ガバナーエレクトをはじめ 43 名のご参加をいただきました。

当日は各メジャードナーに対し、日ごろのロータリー活動へのご理解ご協力に感謝を込めた感謝状の贈呈に続き、日本文化を国内外に発信している人形浄瑠璃 猿八座による「三番叟」と 2019-21 米山奨学生の cottパーシャリン・ティータット君 (通称ティタ君) によるサクソ演奏が披露されました。特に人形浄瑠璃とティタ君のサクソによるコラボ「Imagine」は皆様に喜んでいただき、親睦の席で度々アンコールが求められていました。

ロータリーは「I serve」が基本ですが、参加された皆さんの笑顔に触れ、志を同じくする者同士、このような機会も大切なことなのではと思いました。

今後も、財団・米山に対してご理解ご支援を賜りますようお願いを申し上げ、報告とさせていただきます。





「内向き」と「外向き」 わかりやすい職業奉仕

国際ロータリー第 2560 地区
2022-23 年度 職業奉仕委員長
馬場 伸行 (新潟西 RC)

職業奉仕とは、他の奉仕団体や慈善団体と区別するロータリーの根幹理念であり、とても大切な真髄であるということは分かっていますが、それを正しく理解し、正しく行動することは容易ではありません。既に多くの解説がありますが、倫理観や精神論に踏み込んだ理念的なものが多く、実際に一人一人のロータリアンが、職場で、あるいはクラブの活動として、実際にどう考え、どう行動すればいいのか、イメージが湧きにくいものが少なくありませんでした。そんな中、2016年規定審議会にて標準ロータリークラブ定款に「会員の職業上の手腕（スキル）を活用するクラブの対外的職業奉仕プロジェクト」が明記されたことをふまえ、伝統的職業奉仕論を超えて、クラブの対外的活動の枠組みで職業奉仕をとらえるという解釈も職業奉仕論の1つとなっております。以下の様に、ロータリアンの内面的行動規範としての職業奉仕（内向き）と、クラブの対外的活動としての職業奉仕（外向き）を分けて考えると、これまでのモヤモヤがすっきり明快になった気がします。

・「内向き」の職業奉仕：

ロータリアン一人一人が、日々のロータリー活動や例会に参加する中で「奉仕の理念」を学び、それを自分の職場に持ち帰り「奉仕の理念」「四つのテスト」に従って自分自身を律し、自分の職業で社会に貢献し奉仕しましょう。

・「外向き」の職業奉仕：

①クラブの対外的奉仕活動として、社会の問題やニーズに応じて、会員の職業上の手腕（スキル）を役立てましょう。

②職業人の団体として、次世代に職業を語り伝えましょう。

内向きと外向き、理解のために2つに分けましたが、職業奉仕実践のルートが「自分の職場」か「クラブ」に分かれるだけで、どちらも「職業人が職業を通じて世の中に貢献する」「職業（スキル）で社会に貢献する」という目的は1つで、最後は1つに収斂していくのです。また、職業人に限らず、クラブの奉仕プロジェクト自体が社会の問題やニーズに応じて、そこにご自分のスキルを活かせれば、ロータリーではそれも「外向きの職業奉仕」となります。個々の会員の折角の職業スキルを十分に活かせるようなプロジェクトを開発することこそが、「クラブには自分が必要なんだ」という会員のモチベーションを高め、また社会にアピールしてロータリーの認知度と公共イメージの向上、そして会員の維持・増強にもつながるのではないのでしょうか。

第 2560 地区 2022-23 年度 11 月末 会員数報告

R	C	例会数	My Rotary アカウント 登録率	会 員 数				
				2022年 7月1日	11月末 会員数	うち女性 増減		
第1分区 (9クラブ)				-	372	380	35	8
		4	31.5%	88	89	0	1	
		3	20.5%	38	39	9	1	
		3	26.5%	33	34	1	1	
		4	91.5%	44	47	3	3	
		3	21.6%	38	37	3	-1	
		3	17.4%	23	23	2	0	
		4	4.3%	45	47	4	2	
		4	52.8%	36	36	7	0	
		4	25.0%	27	28	6	1	
第2分区 (9クラブ)				-	426	451	31	25
		4	24.4%	79	90	3	11	
		4	18.5%	63	65	8	2	
		4	33.0%	108	115	6	7	
		1	80.0%	5	5	0	0	
		3	46.3%	38	41	2	3	
		3	12.8%	38	38	4	0	
		4	29.7%	35	37	1	2	
		3	44.4%	18	18	0	0	
		4	52.4%	42	42	7	0	
第3分区 (5クラブ)				-	89	93	5	4
		4	16.7%	18	18	1	0	
		4	50.0%	10	12	0	2	
		3	29.0%	30	31	1	1	
		4	38.5%	26	26	3	0	
		2	0.0%	5	6	0	1	
第4分区 (11クラブ)				-	350	362	26	12
		3	10.5%	55	57	0	2	
		3	8.6%	33	35	2	2	
		3	6.7%	32	30	4	-2	
		3	17.9%	35	39	2	4	
		4	79.3%	29	28	4	-1	
		3	5.0%	21	20	1	-1	
		2	3.6%	28	28	3	0	
		4	9.3%	54	54	2	0	
		3	3.7%	25	27	3	2	
		4	14.3%	6	7	2	1	
		3	5.4%	32	37	3	5	

R	C	例会数	My Rotary アカウント 登録率	会 員 数				
				2022年 7月1日	11月末 会員数	うち女性 増減		
第5分区 (7クラブ)				-	288	295	26	7
		4	73.9%	44	46	3	2	
		3	2.4%	40	41	0	1	
		3	25.9%	52	53	4	1	
		3	18.2%	43	44	3	1	
		4	13.6%	21	22	1	1	
		3	20.0%	49	50	3	1	
		3	23.1%	39	39	12	0	
第6分区 (6クラブ)				-	116	119	12	3
		3	27.3%	31	33	4	2	
		3	10.7%	28	28	4	0	
		3	19.2%	25	26	3	1	
		3	0.0%	14	14	0	0	
		4	25.0%	12	12	1	0	
		4	16.7%	6	6	0	0	
第7分区 (7クラブ)				-	313	315	22	2
		2	33.3%	70	72	4	2	
		3	37.0%	72	72	6	0	
		3	11.4%	35	35	1	0	
		3	97.6%	41	41	3	0	
		4	68.6%	35	35	3	0	
		4	55.6%	27	27	0	0	
		3	93.9%	33	33	5	0	

クラブ数	54 クラブ
7月1日会員数	1,954 人
11月末会員数	2,015 人
女性会員数	157 人
純増減会員数	61 人
My Rotaryアカウント登録率	29.7 %

地区主要行事予定

2022年12月23日現在

年 月 日		行 事		会 場	
2023年 (R5) 高橋年度	1月	職業奉仕月間			
		8~12	(日~木)	国際協議会	オーランド(米国フロリダ州)
		14	(土)	2023学年度米山奨学生選考会	万代シルバーホテル
	28	(土)	国際協議会報告・地区諮問委員会・第2回地区運営会議	ホテルオークラ新潟	
	2月	平和構築と紛争予防月間			
		4	(土)	第2回米山記念奨学委員長セミナー	ホテルオークラ新潟
4		(土)	第2回派遣学生オリエンテーション	ホテルオークラ新潟	
18	(土)	第2回地区ロータリー財団セミナー 兼 補助金管理セミナー	ホテルオークラ新潟		

【新入会員】

(敬称略)

RC	氏名	入会日	会社名	役職	職業分類
新潟南	長北 敏弥	2022.11.09	(株)長北商会	代表取締役	不動産賃貸
新潟西	笹川 和史	2022.11.17	せきや歯科クリニック	医院長	歯科医
長岡東	上村 家一	2022.12.07	(株)三岳機材	代表取締役	工具資材販売
長岡東	田中 栄司	2022.12.14	(株)田中米穀	代表取締役社長	米穀卸売業

【訃報】

(敬称略)

RC	氏名	逝去日	会社名	役職	職業分類	経歴・その他
長岡西	田中 政春	2022.12.02	特定医療法人楽山会 三島病院	名誉理事長	病院	1989-1990年度 クラブ会長 2016-2017年度 ガバナー ロータリーの友委員会 顧問(2017-2018年度) ロータリーの友事務所 理事(2017年9月~2018年9月) 地区諮問委員(2017年度~)



第2地域 ロータリーコーディネーター補佐 辻 正敏 (津)

あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願いたします。唐突ですが、ステータスという言葉があります。日本語では「社会的な基準であり地位の高さ」という意味を持ちます。英語では、ただ「地位」です。以前ロータリーに入るとステータスが上がると言いました。今も言うのかも知れません。逆に言うと、ロータリーに入っている人は、入っていない人より地位として高くなると言えます。理屈を捏ねるつもりはありません。「あなたはロータリーという理念や思想にふさわしい人ですかと日々自問自答していますか」と聞かれたらどう答えますか。

11月のロータリー研究会で国際ロータリー会長のジュニア・ジョーンズさんが基調講演（同時通訳）の中で、ご自身の弟が言った言葉として、「市民生活、自分自身の生活そのものがロータリー」を紹介され、続けて「周りで起きる様々な事件は対処対応の機会を与えてくれている」のだと語られました。そのような考え方ができる人、またはそのように考えられる人になろうとすることがロータリアンだと私には聞こえました。そこで改めてロータリアンのステータスについて考えてみることにします。私が思い出した言葉は「ノブレス・オブリージュ」です。欧米で定着した道徳観です。「貴族や上流階級などの財産、権力、地位を持つ者は、それ相応の社会的責任や義務を負う」というものです。日本では「分相応」という言葉がありますが、それよりは明確な意味のように聞こえます。また「ノブレス・オブリージュ」は「騎士道」と繋がる言葉とありました。騎士道は、忠誠と勇気に加え、敬神・礼節・名誉・寛容、また女性への奉仕などの徳を理想としました。

日本には「武士道」があります。武士道は、君主への絶対的な忠誠の他、信義、尚武、名誉などを重んじました。少し詳しく言うと、義（正義）・勇（正義を貫く勇氣）・仁（慈愛）・礼（心からの礼儀）・誠（正直誠実）・名誉（恥を知る）・忠義（忠誠）の七つの徳でした。この七つの徳を「四つのテスト」と比べてみることにしました。ここからは私が感じるままに書きましたのでお許しください。1番目の「真実かどうか」は義・勇・誠・忠義が、2番目の「みんなに公平か」は礼・誠・名誉、次の「好意と友情を深めるか」は仁・礼・誠、最後の「みんなのためになるかどうか」はロータリーの理念や考えに忠実かとなって仁・誠・名誉・忠義です。こうして考えると武士道と騎士道では敬神と女性への奉仕が異なるくらいです。しかし敬神は、騎士道の世界では一神教ですから書かれますが、武士道と言いますか日本は多神教で宗教を問いません。ただ女性への奉仕というのは異なります。これが今盛んに言われている女性会員がまだまだ少ない原因かも知れませんが言ったら飛躍し過ぎでしょうか。中核的価値観とも簡単に比べてみましょう。中核的価値観は、親睦・奉仕・高潔性・多様性・リーダーシップです。親睦は仁、礼であり誠、奉仕は義であり勇、高潔性は義、勇であり誠、多様性は仁であり礼、リーダーシップは義、勇、仁、礼、誠、名誉、忠義のすべてと言えます。細かいことは別として、昔から人として生きるために言われてきたことは、ロータリーが現在言っていることにも通じていると思います。よく言われる職業奉仕が忘れられたという話も武士道騎士道がロータリーの考えに通じているところがあるとすれば、職業奉仕は忘れられてはいません。両道とも武士、騎士という階級ですが、当時の職業と言ってもよいと思います。すると武士道も騎士道もその職業の掟とも言えます。

どうも近頃ロータリーを難しく考える風潮を感じます。何か理論や難しい言葉、特にロータリーが好きな略語の羅列がまかり通っています。誰でもわかる言葉で易しく簡単にロータリーの話をするだけでよいのではないのでしょうか。それが最も公共イメージ向上につながるのではないのでしょうか。公共イメージの向上はロータリーのステータスを上げることですから。



I serve の公共イメージ



第2地域 ロータリー公共イメージコーディネーター補佐 神野 正博（七尾）

ロータリーの DEI の Diversity 多様性は、会員の人種や国籍、性別、年齢、障がいの有無、宗教、性的指向、価値観などの多様性から、キャリアや経験、職歴、働き方といった職業生活における多様性まで幅広いジャンルで用いられる。

私は、2021-22 年度の国際ロータリー第 2610 地区のガバナーとして、コロナウィルス感染症の状況を横目に見ながら、地区内 64 クラブへオンラインカリアルか、公式訪問を行った。その中で、クラブにも多様性があることに気付いた。RI 会長テーマや地区ガバナー方針など同じコンテンツが流れるものの、その解釈や実効性は多様だ。

決して類型化するわけではないが、大きく 3 つのクラブ形態があるように思えた。

- ① 伝統あるクラブでの I serve
- ② 中間型
- ③ 比較的若いクラブでの We serve

すなわち、③で示した地域における社会奉仕を目的として会員が集った元気のいいクラブでは、We・皆で集まり奉仕活動をやり、積極的にマスコミや SNS に情報発信し、公共イメージを向上させる。まさに、一人でできないことでも徒党を組むことで、自己実現を狙うわけだ。

一方、①の伝統と格式を誇る老舗クラブだ。この会員になることがステータスであり、また、地域の企業や組織のリーダーを会員とする。例会での、情報交換こそが職業奉仕であり、それが I serve である。ここでは、「陰徳」の日本の精神とともに公共イメージ向上へのインセンティブは低いかもしれない。

そして、②のその中間型クラブが大半を占める。クラブの重鎮の意見や特に会長の考え方で年度の取り組みは異なる。いわば、会長イニシアティブ型だ。

敢えて、どの類型が是かはない。繰り返すがクラブの多様性だ。ただ、新入会員にとって、自分の思いとクラブの考え方で乖離があったならば不幸だと言えよう。

各クラブが、自分たちの Mission, Vision, Value を、また、なりたい姿、ありたい姿を明文化してみよう。さらに個々の会員が「私は誰だ?」「なぜロータリーにいるのか?」といった物語を明文化してみよう。それを、地域に公開することで、地域における公共イメージを確立し、同行の士を募ることができるのではないだろうか。

PUBLIC RELATIONS





第2地域 ロータリー財団地域コーディネーター補佐 高橋 茂樹（東京世田谷）

ロータリー財団地域コーディネーター補佐を拝命して3年目の第2地域、RI第2750地区、東京世田谷ロータリークラブ所属の高橋茂樹と申します。

2020-21年度、2021-22年度はCovid-19の影響を受けて、ARRFCとして十分な活動を行なうことができませんでしたが、3年目の本年度は、第2地域の中で私が担当をさせていただいております5地区のロータリー財団委員長の皆さんとも対面でお話ができる状況

になり、やっと担当地区にも伺うことができるようになりました。もともと第2地域では、チームFF9と言う第2地域内の9地区のロータリー財団委員長の会がありますので、比較的情報交換が行われているものと思いますが、それでも、コロナの影響は大きかったと思います。

その様な状況の中、11月19日に神戸で開催されました本年度のロータリー財団地域セミナーも全国から200名を超える皆様にお越しいただき、盛大に行なうことができました。今回のセミナーの中で、私は2つのパートを受け持たせていただきました。1つは、第1地域の羽部大仁直前RRFCとご一緒に、「PHS(ポールハリスソサエティ)入会を推進する」と言うテーマで掛け合いでのお話をいたしました。もう一つは、「ロータリー財団のクラブへの認知度向上」と言うテーマでのパネルディスカッションで、4地区のロータリー財団委員長の皆様にパネリストになっていただき、モデレーターを務めさせていただきました。そして、これらを担当させていただくにあたり、いろいろと調べさせていただきましたが、そこで思いました幾つかの点について述べさせていただきます。

まず、PHSに関しましては、PHS会員数が100名以上の地区は3地区しか無く、更に14地区でまだPHSコーディネーターがアサインされていない状況と言うことが分かりました。地区にとっても、クラブにとっても寄付目標を達成するために、PHS会員を増やすことは、とても重要なことと考えます。是非、PHS入会を地区として推進していただければと思います。

また、パネルディスカッションを行なうにあたって、34地区のホームページを全て拝見いたしました。そこで感じましたことは3つありました。一つ目は、ロータリー財団に関する情報が少なすぎるということです。二つ目は、独自の情報では無く、マイロータリーへ誘導したり、ロータリー日本財団のホームページやロータリー財団ニュースを掲載することで、済ませているケースが多いということです。マイロータリーに誘導するのであれば、その前提として、マイロータリーの登録を推進しなければなりません。そして、3つ目は、地区のロータリー財団委員会がこれで本当に機能しているのかと思える地区があるということです。

皆様の地区のホームページをご覧いただき、ロータリー財団に関する情報のあり方について、検討していただければ幸いです。また、同時に、どの様な委員会組織にすれば、より効果的な、より実践的な委員会活動が行えるかも、再検討いただければと思います。

ロータリー財団がなぜ必要なのか、なぜ重要なのか、その答えを、是非、もう一度お考えいただき、実行していただきます様お願い申し上げます。



1. 電話詐欺被害を防いだ学友に感謝状

10月17日午後23時半ごろ、甲府市内のコンビニエンスストアでアルバイトをしていたレー・チュオン・ロクさん(2020-22/甲府南RC)が、70代後半の男性客より「電子マネーカードを大金でまとめて購入したい」という申し出を受けました。不審に思い用途を確認したところ、目的や電子マネーカードに関する理解度が曖昧だったことから、電話詐欺を確信。110番通報を行い、男性客が電話詐欺被害に遭うのを未然に防ぎました。



甲府署で感謝状を受け取ったロクさん(中央)

ると、ロクさんは真面目で正義感が強い学生とのこと。「日本人でさえ声掛けを躊躇することが多い中で、人や社会のために役に立ちたいと考え、行動するロクくんだからこそ、できた行動だったと思います」と、ロクさんの対応を称賛しました。

甲府警察署は11月28日、この勇氣ある行動に対し、天野英知署長が感謝状を贈呈。受け取ったロクさんは、「詐欺被害を防ぐことができとても嬉しいです。今後も地域社会に貢献できるよう頑張ります」と、述べました。

2. 寄付金速報 — 12月の送金はお早めに —

前年同期比

+ 5.5%

普 - 1.7% 特 + 9.2%

11月までの寄付金は、前年同期と比べて5.5%増(普通寄付金:1.7%減、特別寄付金:9.2%増)、約3,700万円の増加となりました。多くのロータリ

アンからご寄付をいただきまして、厚く御礼申し上げます。12月30日までに当会口座に着金した特別寄付金については、確定申告用領収証を来年1月末日までに各クラブ宛に発送します。詳細は、ページ下の案内をご覧ください。年内はお早目にご送金くださいますようお願いいたします。

3. 第5代よねやま親善大使を募集 (2/15まで)

ロータリー米山記念奨学会では、第5代よねやま親善大使の募集を開始します。「よねやま親善大使」は、日本全国のロータリー地区大会・米山セミナーなどでスピーチを行い、当事業への理解を広める活動をしています。奨学期間を終了した日本国内在住の米山学友で、スピーチが得意な方、ロータリー活動に熱意のある方の

応募をお待ちしています。任期は2023年7月から2年間、応募締切は、2月15日(当会必着)です。詳しくは、当会ホームページの「News & Topics」>「重要なお知らせ」をご覧ください。お知り合いの学友で適任の方がいれば、ぜひご推薦ください!

(※学友本人からの応募が必要です)



申告用領収書は来年1月にお送りします



ロータリー米山記念奨学会へのご寄付は税制優遇を受けることができ、「税額控除」か「所得控除」いずれが有利な方式を選択できます。今年1~12月に寄付をした方には、来年1月末日までに申告用領収書をクラブ経由でお送りします。**12月30日(金) 当会着金分までが対象です。**

米山記念奨学会事務局は、12月28日(水)~1月5日(木)の間休業させていただきます。来年は1月6日(金)より通常業務となります。



4. 韓国米山学友会総会が3年ぶりの対面開催



11月26日、ソウル市内のホテルにて、韓国米山学友会総会が開催されました。同学友会の総会は3年ぶりに対面開催となり、会場には60人が参加しました。

第1部は、全^{ジョンピョンテ}炳台会長（1980-83／仙台北RC）の挨拶を皮切りに、当会の若林紀男理事長

からのビデオメッセージが上映され、梨泰院での事故への追悼の意を表すとともに、同学友会の発展と世界平和への願いが語られました。また、滝澤功治副理事長が会場に出席し、激励の言葉を述べました。

韓国の現代音楽である「サムルノリ」の公演で華々しく幕を開けた第2部は、同学友会が独自で支援する現地日本人奨学生^{ニホニシヤウガクシユウ}の近況報告や、来年8月5日・6日につくば市で開催される世界大会「再会 in 関東」の紹介などが行われました。ようやく対面での開催ができた今回の総会には、日本からも多数の学友やロータリアンが出席し、大盛況となりました。

5. 米山の絆を深めてポリオ根絶をアピール

10月23・24日、国際ロータリー第2750地区の米山奨学生・ロータリアン一泊研修旅行が開催されました。米山奨学生同士の絆、米山奨学生とロータリアンとの絆を深めることに重点を置いたという今回の研修旅行には、米山奨学生20人、ロータリアン21人、ローターアクター1人の、総勢42人が参加。

目的地の伊勢神宮では、御神楽奉納などを特別拝観し、日本の歴史と伝統を体感。また、24日の「世界ポリオデー」に合わせ、全員で「エンドポリオナウ」のシャツを着用。ポリオ根絶をアピールするとともに、参加した奨学生も、



お揃いのシャツで記念撮影

ポリオへの関心と理解を深めました。同地区の柳田一行米山記念奨学委員長は、「奨学生たちが心から楽しんでいる姿、素敵な笑顔が、ロータリアンとして最高の幸せを感じた瞬間でした」と、充実の研修旅行を締めくくりました。

6. 「恩返し」のチャリティー奉仕リレー第2弾

第3回米山学友による世界大会「再会 in 関東」に向けた、関東10地区学友会による“チャリティー奉仕リレー”。

前回の国際ロータリー第2770地区米山学友会に続く第2弾として、11月13日、第2750・2580地区米山学友会、ローターアクトクラブによる「南北合同地区行事」が開催され、募金活動とプロギング活動（ジョギングとゴミ拾いをミックスした、スウェーデン発祥の取り組み）を行いました。募金活動では、



取り組みについて紹介する米山学友

米山奨学生として支援をいただいた「恩返し」として、日本の貧困に苦しむ子どもたちへの教育支援をしたい、という学友たちの思いに対し、多くの寄付が集まりました。

以前から、こども食堂への支援を行っている第2750地区米山学友会の李讓珍^{イニョウジン}会長（2015-17／東京八王子東RC）は、「チャリティー奉仕リレーにローターアクターが初参加し、ロータリーファミリーの横の輪が広がり、嬉しく思います」と、述べました。